

令和7年度

柔道整復スポーツ科学科

2年

シラバス

学校法人 健生学園
東日本医療専門学校

授業科目名	生理学Ⅲ			授業形態	講義	教員名	藤本 敏彦			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	筋の生理、骨の生理、体温とその調節、高齢者の生理学的特徴・変化、発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化を解説する。									
授業の到達目標	臓器が発達・発育、加齢、運動によって受ける影響を説明できる。特に日常活動に直結する筋や骨が発達・発育、加齢、運動によって受ける影響を学び説明することができるようになる。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 ガイダンス、筋の生理 構造</p> <p>第2週目 筋の生理 骨格筋と心筋</p> <p>第3週目 骨の生理 構造</p> <p>第4週目 骨の生理 成長</p> <p>第5週目 体温とその調節 節産生と放散</p> <p>第6週目 体温調節</p> <p>第7週目 気候順化</p> <p>第8週目 高齢者の生理的特徴・変化 細胞の加齢</p> <p>第9週目 高齢者の生理的特徴・変化 高齢者の特徴</p> <p>第10週目 高齢者の生理的特徴・変化 運動と加齢</p> <p>第11週目 発達・発育 運動能力の発達</p> <p>第12週目 発達発育 運動不足と過多</p> <p>第13週目 競技者の生理的特徴・変化</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>各週、予習・復習を必須とする。授業は質問形式として、回答数に合わせて平常点に加点を行う。授業は教科書を基とした資料を配付し、その内容に沿って要点を絞って学習を行う。</p>									
教科書・参考書等	全国柔道整復学教協会監修 生理学 改訂第4版									
成績評価の方法	定期試験 90%、授業中の発表回数 10%、予習の忘れは減点 1回5点、病欠・公欠・忌引き以外の欠席1回5点減点、授業時の居眠り、雑談等は教員の判断で減点。									
実践的教育に関する経歴等	宮城教育大学で人体生理学の講義経験。 東北大学高度教養教育学生支援機構および医学系研究科運動学講座にて運動学などの講義経験。 中学・高校保健体育選手免許									

授業科目名	運動器の構造と機能Ⅱ			授業形態	講義	教員名	菅野 貴宏																																	
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																														
授業概要	1年次に学習した筋骨格系についてを振り返りながら、柔道整復師の業務の根幹をなす運動器の構造と機能について理解を深める。																																							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各関節運動とそれに関連する筋を理解する。 2. 運動神経と筋の支配関係を理解する。 3. 骨、筋、神経の位置や走行を理解する。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 関節運動の表現、骨の構造と機能</td> <td>第16週目 関節運動と筋の作用(脊柱、頸椎)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 関節の構造と機能、筋の構造と機能</td> <td>第17週目 関節運動と筋の作用(胸椎、胸郭)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 関節運動と筋の作用(上肢帯)</td> <td>第18週目 関節運動と筋の作用(腰椎、骨盤)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 関節運動と筋の作用(肩関節)</td> <td>第19週目 脊髄神経と骨格筋(上肢)1</td> </tr> <tr> <td>第5週目 関節運動と筋の作用(肘関節、前腕)</td> <td>第20週目 脊髄神経と骨格筋(上肢)2</td> </tr> <tr> <td>第6週目 関節運動と筋の作用(手関節、手指)</td> <td>第21週目 脊髄神経と骨格筋(下肢)1</td> </tr> <tr> <td>第7週目 関節運動と筋の作用(股関節)</td> <td>第22週目 脊髄神経と骨格筋(下肢)2</td> </tr> <tr> <td>第8週目 関節運動と筋の作用(膝関節)</td> <td>第23週目 姿勢1</td> </tr> <tr> <td>第9週目 関節運動と筋の作用(足関節、足部)</td> <td>第24週目 姿勢2</td> </tr> <tr> <td>第10週目 総合的学習(評価1)</td> <td>第25週目 総合的学習(評価1)</td> </tr> <tr> <td>第11週目 総合的学習(評価2)</td> <td>第26週目 総合的学習(評価2)</td> </tr> <tr> <td>第12週目 総合的学習(評価3)</td> <td>第27週目 総合的学習(評価3)</td> </tr> <tr> <td>第13週目 総合的学習(評価4)</td> <td>第28週目 総合的学習(評価4)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 総合的学習(評価5)</td> <td>第29週目 総合的学習(評価5)</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験、解説</td> <td>第30週目 試験、解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料は紙またはオンライン上での配布とする。 ・googleクラスルーム等を使用するため、毎授業オンライン接続できる端末を準備すること。 ・適宜授業にグループワークを取り入れる。 										第1週目 関節運動の表現、骨の構造と機能	第16週目 関節運動と筋の作用(脊柱、頸椎)	第2週目 関節の構造と機能、筋の構造と機能	第17週目 関節運動と筋の作用(胸椎、胸郭)	第3週目 関節運動と筋の作用(上肢帯)	第18週目 関節運動と筋の作用(腰椎、骨盤)	第4週目 関節運動と筋の作用(肩関節)	第19週目 脊髄神経と骨格筋(上肢)1	第5週目 関節運動と筋の作用(肘関節、前腕)	第20週目 脊髄神経と骨格筋(上肢)2	第6週目 関節運動と筋の作用(手関節、手指)	第21週目 脊髄神経と骨格筋(下肢)1	第7週目 関節運動と筋の作用(股関節)	第22週目 脊髄神経と骨格筋(下肢)2	第8週目 関節運動と筋の作用(膝関節)	第23週目 姿勢1	第9週目 関節運動と筋の作用(足関節、足部)	第24週目 姿勢2	第10週目 総合的学習(評価1)	第25週目 総合的学習(評価1)	第11週目 総合的学習(評価2)	第26週目 総合的学習(評価2)	第12週目 総合的学習(評価3)	第27週目 総合的学習(評価3)	第13週目 総合的学習(評価4)	第28週目 総合的学習(評価4)	第14週目 総合的学習(評価5)	第29週目 総合的学習(評価5)	第15週目 試験、解説	第30週目 試験、解説
第1週目 関節運動の表現、骨の構造と機能	第16週目 関節運動と筋の作用(脊柱、頸椎)																																							
第2週目 関節の構造と機能、筋の構造と機能	第17週目 関節運動と筋の作用(胸椎、胸郭)																																							
第3週目 関節運動と筋の作用(上肢帯)	第18週目 関節運動と筋の作用(腰椎、骨盤)																																							
第4週目 関節運動と筋の作用(肩関節)	第19週目 脊髄神経と骨格筋(上肢)1																																							
第5週目 関節運動と筋の作用(肘関節、前腕)	第20週目 脊髄神経と骨格筋(上肢)2																																							
第6週目 関節運動と筋の作用(手関節、手指)	第21週目 脊髄神経と骨格筋(下肢)1																																							
第7週目 関節運動と筋の作用(股関節)	第22週目 脊髄神経と骨格筋(下肢)2																																							
第8週目 関節運動と筋の作用(膝関節)	第23週目 姿勢1																																							
第9週目 関節運動と筋の作用(足関節、足部)	第24週目 姿勢2																																							
第10週目 総合的学習(評価1)	第25週目 総合的学習(評価1)																																							
第11週目 総合的学習(評価2)	第26週目 総合的学習(評価2)																																							
第12週目 総合的学習(評価3)	第27週目 総合的学習(評価3)																																							
第13週目 総合的学習(評価4)	第28週目 総合的学習(評価4)																																							
第14週目 総合的学習(評価5)	第29週目 総合的学習(評価5)																																							
第15週目 試験、解説	第30週目 試験、解説																																							
教科書・参考書等	運動学改訂3版(医歯薬出版) 解剖学改訂2版(医歯薬出版) 上記を参考書として用いるので毎回準備すること																																							
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験 (50) 2. 授業内評価 (50) * 詳細は初回授業で説明する <p>上記の項目により通年平均60点以上の場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格																																							

授業科目名	病理学			授業形態	講義	教員名	齋藤 悠			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	疾病における臓器・組織・細胞の形態的变化を理解し、正常な組織・細胞との差異を認識する。学生の将来の知見を広げる基礎となるような、基礎的病理学知識の習得を目指す。									
授業の到達目標	①各々の組織における「疾病」とはどのような状態を指すのかを理解できるようになる。 ②「疾病」が発生する原因を理解できるようになる。 ③「疾病」が発生させないためには何を行うことが合理的な解決につながるかを考察できるようになる。									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 病理学とは/疾病総論 第2週目 疾病総論/病因論 第3週目 退行性病変 第4週目 循環障害 血液の循環異常 第5週目 循環障害 リンパ液の循環異常 第6週目 進行性病変 第7週目 炎症 炎症の原因 炎症による組織変化 第8週目 炎症 炎症の分類 第9週目 免疫異常 抗原・抗体・リンパ球 第10週目 免疫異常 アレルギーと免疫疾患 第11週目 腫瘍 腫瘍とは 腫瘍の原因 第12週目 腫瘍 腫瘍の分類 第13週目 先天性異常 遺伝疾患・染色体異常 第14週目 先天性異常 奇形について 第15週目 期末試験・試験解説 * 講義の進行具合によって変更する可能性がある (授業の方法および自学学習について) ・授業は、プロジェクターによるプレゼンテーションおよび講義プリント配布形式を基本として実施する。 ・国家試験の過去問題を解きながら知識の整理に努める									
教科書・参考書等	病理学概論 改訂第3版(医歯薬出版株式会社)									
成績評価の方法	年1回の期末試験の点数に平常点を考慮する									
実践的教育に関する経歴等	歯科医師									

授業科目名	一般臨床医学			授業形態	講義	教員名	洞口 亮																																		
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																															
授業概要	<p>柔道整復師は主に外傷の治療を行うが、そののみならず内臓疾患を有する患者の第1次医療機関の性質をも有する。内臓疾患に対しては、早期に適切な医療機関での対応が必要とされるが、その徴候を知らずして適切な対応は不可能である。本講義では、各種診察法からはじめ、各種疾患の特徴を学んでいき国民医療に寄与する医療人の育成を目指す。</p>																																								
授業の到達目標	<p>診察法及び各疾患の内科的特徴の理解</p>																																								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 診察概論、診察各論1</td> <td>第16週目 消化器疾患1</td> </tr> <tr> <td>第2週目 診察各論2</td> <td>第17週目 消化器疾患2</td> </tr> <tr> <td>第3週目 診察各論3</td> <td>第18週目 肝胆膵疾患1</td> </tr> <tr> <td>第4週目 診察各論4</td> <td>第19週目 肝胆膵疾患2、栄養・代謝疾患1</td> </tr> <tr> <td>第5週目 診察各論5</td> <td>第20週目 栄養・代謝疾患2、内分泌疾患1</td> </tr> <tr> <td>第6週目 診察各論6</td> <td>第21週目 内分泌疾患2</td> </tr> <tr> <td>第7週目 診察各論7</td> <td>第22週目 内分泌疾患3、血液・造血器疾患1</td> </tr> <tr> <td>第8週目 診察各論8、検査法</td> <td>第23週目 血液・造血器疾患2</td> </tr> <tr> <td>第9週目 呼吸器疾患1</td> <td>第24週目 腎・尿路疾患</td> </tr> <tr> <td>第10週目 呼吸器疾患2</td> <td>第25週目 神経疾患1</td> </tr> <tr> <td>第11週目 循環器疾患1</td> <td>第26週目 神経疾患2、感染症・性病</td> </tr> <tr> <td>第12週目 循環器疾患2</td> <td>第27週目 膠原病</td> </tr> <tr> <td>第13週目 循環器疾患3、まとめ</td> <td>第28週目 環境要因による疾患、まとめ</td> </tr> <tr> <td>第14週目 期末試験</td> <td>第29週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 試験解説、前期のまとめ</td> <td>第30週目 試験解説、後期のまとめ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を主体として授業を進める。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合がありますので、授業回ごとに整理しておくこと。 											第1週目 診察概論、診察各論1	第16週目 消化器疾患1	第2週目 診察各論2	第17週目 消化器疾患2	第3週目 診察各論3	第18週目 肝胆膵疾患1	第4週目 診察各論4	第19週目 肝胆膵疾患2、栄養・代謝疾患1	第5週目 診察各論5	第20週目 栄養・代謝疾患2、内分泌疾患1	第6週目 診察各論6	第21週目 内分泌疾患2	第7週目 診察各論7	第22週目 内分泌疾患3、血液・造血器疾患1	第8週目 診察各論8、検査法	第23週目 血液・造血器疾患2	第9週目 呼吸器疾患1	第24週目 腎・尿路疾患	第10週目 呼吸器疾患2	第25週目 神経疾患1	第11週目 循環器疾患1	第26週目 神経疾患2、感染症・性病	第12週目 循環器疾患2	第27週目 膠原病	第13週目 循環器疾患3、まとめ	第28週目 環境要因による疾患、まとめ	第14週目 期末試験	第29週目 期末試験	第15週目 試験解説、前期のまとめ	第30週目 試験解説、後期のまとめ
第1週目 診察概論、診察各論1	第16週目 消化器疾患1																																								
第2週目 診察各論2	第17週目 消化器疾患2																																								
第3週目 診察各論3	第18週目 肝胆膵疾患1																																								
第4週目 診察各論4	第19週目 肝胆膵疾患2、栄養・代謝疾患1																																								
第5週目 診察各論5	第20週目 栄養・代謝疾患2、内分泌疾患1																																								
第6週目 診察各論6	第21週目 内分泌疾患2																																								
第7週目 診察各論7	第22週目 内分泌疾患3、血液・造血器疾患1																																								
第8週目 診察各論8、検査法	第23週目 血液・造血器疾患2																																								
第9週目 呼吸器疾患1	第24週目 腎・尿路疾患																																								
第10週目 呼吸器疾患2	第25週目 神経疾患1																																								
第11週目 循環器疾患1	第26週目 神経疾患2、感染症・性病																																								
第12週目 循環器疾患2	第27週目 膠原病																																								
第13週目 循環器疾患3、まとめ	第28週目 環境要因による疾患、まとめ																																								
第14週目 期末試験	第29週目 期末試験																																								
第15週目 試験解説、前期のまとめ	第30週目 試験解説、後期のまとめ																																								
教科書・参考書等	<p>一般臨床医学改訂第3版(医歯薬出版、2019)を教科書とする。</p>																																								
成績評価の方法	<p>期末試験の結果(80%)出席点(20%)</p> <p>上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。</p>																																								
実践的教育に関する経歴等	<p>医師</p>																																								

授業科目名	外科学			授業形態	講義	教員名	原田 日南子																																	
科目区分	専門基礎分野	単位数	3 単位	時間数	45 時間	期間	通年	23 回	対象学年	2 年生																														
授業概要	日常で遭遇する機会の多い外科疾患およびその適切な対応について学ぶ。																																							
授業の到達目標	・外科的知識の基本の修得																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 損傷</td> <td>第16週目 出血と止血</td> </tr> <tr> <td>第2週目 損傷</td> <td>第17週目 心肺蘇生法</td> </tr> <tr> <td>第3週目 損傷</td> <td>第18週目 脳神経外科疾患</td> </tr> <tr> <td>第4週目 炎症と外科感染症</td> <td>第19週目 脳神経外科疾患</td> </tr> <tr> <td>第5週目 炎症と外科感染症</td> <td>第20週目 胸壁、呼吸器疾患</td> </tr> <tr> <td>第6週目 腫瘍</td> <td>第21週目 心臓、脈管疾患</td> </tr> <tr> <td>第7週目 ショック</td> <td>第22週目 腹部外科疾患</td> </tr> <tr> <td>第8週目 ショック</td> <td>第23週目 期末試験</td> </tr> <tr> <td>第9週目 輸血、輸液</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第10週目 消毒と滅菌</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11週目 手術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第12週目 麻酔</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第13週目 移植と免疫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第14週目 移植と免疫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末試験</td> <td></td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。 										第1週目 損傷	第16週目 出血と止血	第2週目 損傷	第17週目 心肺蘇生法	第3週目 損傷	第18週目 脳神経外科疾患	第4週目 炎症と外科感染症	第19週目 脳神経外科疾患	第5週目 炎症と外科感染症	第20週目 胸壁、呼吸器疾患	第6週目 腫瘍	第21週目 心臓、脈管疾患	第7週目 ショック	第22週目 腹部外科疾患	第8週目 ショック	第23週目 期末試験	第9週目 輸血、輸液		第10週目 消毒と滅菌		第11週目 手術		第12週目 麻酔		第13週目 移植と免疫		第14週目 移植と免疫		第15週目 期末試験	
第1週目 損傷	第16週目 出血と止血																																							
第2週目 損傷	第17週目 心肺蘇生法																																							
第3週目 損傷	第18週目 脳神経外科疾患																																							
第4週目 炎症と外科感染症	第19週目 脳神経外科疾患																																							
第5週目 炎症と外科感染症	第20週目 胸壁、呼吸器疾患																																							
第6週目 腫瘍	第21週目 心臓、脈管疾患																																							
第7週目 ショック	第22週目 腹部外科疾患																																							
第8週目 ショック	第23週目 期末試験																																							
第9週目 輸血、輸液																																								
第10週目 消毒と滅菌																																								
第11週目 手術																																								
第12週目 麻酔																																								
第13週目 移植と免疫																																								
第14週目 移植と免疫																																								
第15週目 期末試験																																								
教科書・参考書等	外科学概論 改訂第4版(南江堂)																																							
成績評価の方法	期末試験の結果を主として、場合によって出席状況を加味する 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。																																							
実践的教育に関する経歴等	医師																																							

授業科目名	整形外科学			授業形態	講義	教員名	尾股 聡																																	
科目区分	専門基礎分野	単位数	4 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																														
授業概要	<p>多種の整形外科疾患に対応するための骨・軟骨などの運動器の基礎的知識をもとに、整形外科の基礎的治療法、スポーツ外傷感染性疾患、腫瘍を含めた身体各部の疾患を学んでいき整形外科学全般の基礎的知識の理解を目指す。</p>																																							
授業の到達目標	<p>・整形外科学全般での基本的知識の習得</p>																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">第1週目 運動器の基礎知識、整形外科診察法</td> <td style="width: 50%;">第16週目 疾患別各論：神経、筋疾患(腕神経叢損傷、分娩麻痺)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 整形外科検査法、整形外科的治療法</td> <td>第17週目 疾患別各論：全身性神経、筋疾患</td> </tr> <tr> <td>第3週目 骨、関節損傷総論</td> <td>第18週目 疾患別各論：神経、筋疾患(脊髄腫瘍)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論</td> <td>第19週目 身体部位別各論：体幹</td> </tr> <tr> <td>第5週目 疾患別各論：感染性疾患</td> <td>第20週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患</td> </tr> <tr> <td>第6週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍</td> <td>第21週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患</td> </tr> <tr> <td>第7週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍</td> <td>第22週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患</td> </tr> <tr> <td>第8週目 疾患別各論：非感染性軟部、骨関節疾患</td> <td>第23週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患</td> </tr> <tr> <td>第9週目 疾患別各論：全身性の骨、軟部疾患</td> <td>第24週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患</td> </tr> <tr> <td>第10週目 疾患別各論：骨端症</td> <td>第25週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患</td> </tr> <tr> <td>第11週目 疾患別各論：四肢循環障害</td> <td>第26週目 問題演習</td> </tr> <tr> <td>第12週目 疾患別各論：神経、筋疾患(絞扼性神経障害)</td> <td>第27週目 問題演習</td> </tr> <tr> <td>第13週目 疾患別各論：神経、筋疾患(絞扼性神経障害)</td> <td>第28週目 問題演習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 問題演習</td> <td>第29週目 問題演習</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験</td> <td>第30週目 後期期末試験</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内でレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。 										第1週目 運動器の基礎知識、整形外科診察法	第16週目 疾患別各論：神経、筋疾患(腕神経叢損傷、分娩麻痺)	第2週目 整形外科検査法、整形外科的治療法	第17週目 疾患別各論：全身性神経、筋疾患	第3週目 骨、関節損傷総論	第18週目 疾患別各論：神経、筋疾患(脊髄腫瘍)	第4週目 スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論	第19週目 身体部位別各論：体幹	第5週目 疾患別各論：感染性疾患	第20週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患	第6週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍	第21週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患	第7週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍	第22週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患	第8週目 疾患別各論：非感染性軟部、骨関節疾患	第23週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患	第9週目 疾患別各論：全身性の骨、軟部疾患	第24週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患	第10週目 疾患別各論：骨端症	第25週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患	第11週目 疾患別各論：四肢循環障害	第26週目 問題演習	第12週目 疾患別各論：神経、筋疾患(絞扼性神経障害)	第27週目 問題演習	第13週目 疾患別各論：神経、筋疾患(絞扼性神経障害)	第28週目 問題演習	第14週目 問題演習	第29週目 問題演習	第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験
第1週目 運動器の基礎知識、整形外科診察法	第16週目 疾患別各論：神経、筋疾患(腕神経叢損傷、分娩麻痺)																																							
第2週目 整形外科検査法、整形外科的治療法	第17週目 疾患別各論：全身性神経、筋疾患																																							
第3週目 骨、関節損傷総論	第18週目 疾患別各論：神経、筋疾患(脊髄腫瘍)																																							
第4週目 スポーツ整形外科総論、リハビリテーション総論	第19週目 身体部位別各論：体幹																																							
第5週目 疾患別各論：感染性疾患	第20週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患																																							
第6週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍	第21週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患																																							
第7週目 疾患別各論：骨および軟部腫瘍	第22週目 身体部位別各論：肩甲帯および上肢の疾患																																							
第8週目 疾患別各論：非感染性軟部、骨関節疾患	第23週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患																																							
第9週目 疾患別各論：全身性の骨、軟部疾患	第24週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患																																							
第10週目 疾患別各論：骨端症	第25週目 身体部位別各論：骨盤および下肢の疾患																																							
第11週目 疾患別各論：四肢循環障害	第26週目 問題演習																																							
第12週目 疾患別各論：神経、筋疾患(絞扼性神経障害)	第27週目 問題演習																																							
第13週目 疾患別各論：神経、筋疾患(絞扼性神経障害)	第28週目 問題演習																																							
第14週目 問題演習	第29週目 問題演習																																							
第15週目 前期期末試験	第30週目 後期期末試験																																							
教科書・参考書等	整形外科学 改訂第4版(南江堂)																																							
成績評価の方法	<p>期末試験の結果を主として、場合によって出席状況を加味する 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	医師																																							

授業科目名	リハビリテーション医学		授業形態	講義	教員名	原田 日南子				
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	15 時間	期間	半期	8 回	対象学年	2 年生
授業概要	最近の医学の進歩により感染症などの急性疾患は減少し重症疾患で死に至るような患者でもその命を救うことが可能となった。しかしその結果、重い障害を残す患者が増加し、リハビリテーション医学に対する需要や期待が大きくなってきている。コメディカル的一端を担う柔道整復師としてリハビリテーションへの理解と知識を深めることを目指す。									
授業の到達目標	・リハビリテーション知識の習得									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 リハビリテーションの理念～</p> <p>第2週目 リハビリテーションの対象と障害者の実態～</p> <p>第3週目 リハビリテーション評価学</p> <p>第4週目 リハビリテーション評価学</p> <p>第5週目 リハビリテーション障害学と治療学</p> <p>第6週目 リハビリテーション障害学と治療学</p> <p>第7週目 リハビリテーション医学の関連職種</p> <p>第8週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式を主体とするが、状況に応じてオンライン授業を取り入れる場合がある。 ・授業内で必要に応じてレジメ等を配布する場合があるので、授業回ごとに整理しておくこと。 									
教科書・参考書等	リハビリテーション医学 改訂第4版(南江堂)									
成績評価の方法	期末試験の結果を主として、場合によって出席状況を加味する 上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。									
実践的教育に関する経歴等	医師									

授業科目名	衛生学			授業形態	講義	教員名	馬目 歩実			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	<p>社会における柔道整復師としての立場から公衆衛生の向上を図るために必要な基礎的事項を修得し、これを応用する素養を得ることを目指す。</p>									
授業の到達目標	<p>組織された地域社会の努力を通して、疾病を予防し、生命を延長し、身体的、精神的機能の増進をはかる科学であり技術である。</p> <p>①疾病予防／生命の延長／身体的・精神的機能の増進 に寄与できる知識を得ること。</p> <p>②世界の平和と安全の基礎である「健康」を追究すること。</p>									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 1章 衛生学の歴史と公衆衛生活動、2章 健康の概</p> <p>第2週目 2章 健康の測定</p> <p>第3週目 3章 疾病予防と健康管理</p> <p>第4週目 4章 感染症の予防</p> <p>第5週目 5章 消毒、6章 環境衛生</p> <p>第6週目 6章 環境衛生</p> <p>第7週目 7章 生活環境・食品衛生</p> <p>第8週目 8章 母子保健、9章 学校保健</p> <p>第9週目 9章 学校保健、10章 産業保健</p> <p>第10週目 10章 産業保健、11章 成人・高齢者保健</p> <p>第11週目 12章 精神保健、13章 地域保健と国際保健</p> <p>第12週目 14章 衛生行政と保健医療</p> <p>第13週目 15章 医療倫理、16章 疫学</p> <p>第14週目 期末試験</p> <p>第15週目 試験解説</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>・授業は、パワーポイントによるスライドと講義プリント配布形式を基本として実施する。</p>									
教科書・参考書等	「衛生学・公衆衛生学 改訂第6版」 南江堂									
成績評価の方法	年1回の期末試験(マークシート形式)									
実践的教育に関する経歴等	歯科医師									

授業科目名	柔道 I			授業形態	実技	教員名	小原 賢			
科目区分	専門基礎分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	柔道の歴史を学び、理念のもと礼法、受身、投の形の基本を鍛錬習得する。									
授業の到達目標	柔道理念の理解を深める。 礼法、受身、投の形(手技・腰技・足技)の習得									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 オリエンテーション 礼法・受け身 第2週目 礼法・受け身・投の形(手技①浮落) 第3週目 礼法・受け身・投の形(手技②背負投) 第4週目 礼法・受け身・投の形(手技③肩車) 第5週目 礼法・受け身・投の形(腰技①浮腰) 第6週目 礼法・受け身・投の形(腰技②払腰) 第7週目 礼法・受け身・投の形(腰技③釣込腰) 第8週目 礼法・受け身・投の形(足技①送足払) 第9週目 礼法・受け身・投の形(足技②支釣込足) 第10週目 礼法・受け身・投の形(足技③内股) 第11週目 礼法・受け身・投の形・約束乱取 第12週目 礼法・受け身・投の形・約束乱取 第13週目 実技試験の内容説明 第14週目 実技試験 第15週目 実技試験の評価</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>1)柔道場にて実技の授業となる。柔道衣・装飾類に留意すること。 2)柔道の基本動作・受身・礼法・投の形の習得を目指す。 3)出席状況や授業態度などを重視し評価する。 4)授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。 5)常時安全・衛生に留意する。</p>									
教科書・参考書等	「柔道」の教科書、WEB動画									
成績評価の方法	授業態度、出席状況、実技試験で総合的に評価する。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師、柔道整復師専科教員									

授業科目名	柔道整復各論Ⅱ			授業形態	講義	教員名	半澤 優			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	各損傷の概要や、発生機序、症状、整復法、固定等を学び、臨床現場で判断し、対応できる知識の習得を図る。実際の臨床現場で扱うことの多い損傷に関しては、整復、固定等実技の習得も図る。また、本講義では各損傷の理解を深めるために運動器の解剖学的知識の復習を行う。									
授業の到達目標	1)解剖学、運動学的視点からの各損傷の理解 2)临床上重要となる特徴の理解 3)各損傷における柔道整復術の修得									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 頭蓋機能解剖1 第2週目 頭蓋機能解剖2 第3週目 頭蓋骨骨折1 第4週目 頭蓋骨骨折2 第5週目 頭蓋骨骨折3 第6週目 脊柱機能解剖1 第7週目 脊柱機能解剖2 第8週目 <前期中間試験> 第9週目 頸椎骨折1 第10週目 頸椎骨折2 第11週目 胸椎骨折1 第12週目 胸椎骨折2 第13週目 腰椎骨折 第14週目 前期復習 第15週目 <前期期末試験> 第16週目 肋骨機能解剖 第17週目 肋骨骨折1 第18週目 肋骨骨折2 第19週目 胸骨骨折 第20週目 顎関節脱臼1 第21週目 顎関節脱臼2 第22週目 脊椎脱臼 第23週目 <後期中間試験> 第24週目 頭部/顔面打撲 第25週目 顎関節症 第26週目 外傷性頸部症候群(むちうち) 第27週目 胸郭出口症候群 第28週目 寝違え 第29週目 後期復習 第30週目 <後期期末試験>									
	(授業の方法および自学学習について) ・許可なく授業内容の撮影/録音/SNSへの投稿は禁止とする。 ・授業中の飲料摂取を許可する。									
教科書・参考書等	社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂 社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』南江堂 他、授業内容に応じて資料を配布する。									
成績評価の方法	【前期】中間試験:30% 期末試験:70% 【後期】中間試験:30% 期末試験:50% 課題:20% ※通年で、120/200点以上を取得すれば単位を認定する。 ※授業への取り組み姿勢に問題がある場合、上記評価から減点することがある。									
実践的教育に関する経歴等	柔整専科教員免許									

授業科目名	柔道整復各論Ⅲ			授業形態	講義	教員名	菅野貴宏 古小高朗浩			
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生
授業概要	各損傷の概要や、発生機序、症状、整復法、固定等を学び、臨床現場で判断し、対応できる知識の習得を図る。実際の臨床現場で扱うことの多い損傷に関しては、整復、固定等実技の習得も図る。また、本講義では各損傷の理解を深めるために運動器の解剖学的知識の復習を行う。									
授業の到達目標	1)解剖学、運動学的視点からの各損傷の理解 2)临床上重要となる特徴の理解 3)各損傷における柔道御整復術の修得									
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 授業オリエンテーション、橈骨近位端部骨折 第16週目 基節骨骨折 第2週目 橈骨近位端部骨折 第17週目 中節骨骨折 第3週目 肘頭骨折 第18週目 末節骨骨折 第4週目 橈骨骨幹部骨折、ガレアジ骨折、尺骨骨幹部骨折 第19週目 マレットフィンガー 第5週目 モンテギア骨折 第20週目 指骨骨折 第6週目 橈・尺両骨骨幹部骨折 第21週目 前腕両骨脱臼 第7週目 小テスト/テストの振り返り 第22週目 前腕両骨脱臼 第8週目 コーレス骨折 第23週目 橈骨頭単独脱臼、肘内障 第9週目 コーレス骨折 第24週目 遠位橈尺関節脱臼、月状骨脱臼 第10週目 スミス・バートン・ショウファー骨折等 第25週目 第1指中手指節関節脱臼 第11週目 舟状骨骨折、その他手根骨骨折 第26週目 第1指以外の中手指節関節脱臼 第12週目 中手骨骨頭部骨折、中手骨頸部骨折 第27週目 近位指節間関節脱臼 第13週目 中手骨骨幹部骨折、第1中手骨基部骨折等 第28週目 遠位指節間関節脱臼 第14週目 期末テスト対策 第29週目 期末テスト対策 第15週目 期末テスト 第30週目 期末テスト (授業の方法および自学学習について) ・前期:演習問題とグループワークを中心に実施する。事前に学習範囲を一読しておくこと。 また、関係する運動器系の内容も試験で出題するため、適度に復習しておくこと。 ・後期:授業は板書を中心に行い、チョーク各色を頻繁に使用するため、それに対応できるペンを準備できることが望ましい。									
教科書・参考書等	社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』 南江堂									
成績評価の方法	前期:小テスト(20%)及び前期期末テスト(80%)の合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は前期再テストの対象となる。) * 学習態度を考慮し加点や減点する場合がある。 後期:小テストの成績および期末試験成績(100%)を100点法によって評価し、60点以上を合格とする。 * 小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。(公欠対象となる欠席の場合はこの限りではない。) * 小テストの実施時期は都度連絡することとする。 * 各学期の成績は学年末に総合し、最終評定を出す。最終評定は100点法によって行い、60点以上を合格とする。									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格									

授業科目名	柔道整復各論Ⅳ			授業形態	講義	教員名	谷藤 淳史																																		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																															
授業概要	臨床現場で遭遇しやすい柔道整復術適応疾患で比較的多い、軟部組織損傷に対する症状、施術方法、予後などを講義にて論ずる。																																								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・临床上重要な上肢の軟部組織損傷の病態、検査法および施術方法を理解する。 ・各損傷のメカニズム、特徴を明確に捉えて、臨床現場等で求められる、素早い判断能力と適切な処置が行えるようにするための理論を養う。 ・小テスト、期末テストを通じて、国家試験に対応できる知識を習得する。 																																								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 オリエンテーション、腱板断裂①</td> <td>第16週目 正中神経障害、回内筋症候群、前骨間神経麻痺</td> </tr> <tr> <td>第2週目 腱板断裂②、上腕二頭筋長頭腱損傷</td> <td>第17週目 橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺</td> </tr> <tr> <td>第3週目 ベネット損傷、SLAP損傷</td> <td>第18週目 尺骨神経障害、肘部管症候群</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩</td> <td>第19週目 三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病</td> </tr> <tr> <td>第5週目 動揺性肩関節、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害</td> <td>第20週目 手根管症候群、尺骨神経管症候群</td> </tr> <tr> <td>第6週目 五十肩、上腕部の軟部組織損傷(小テスト対策)</td> <td>第21週目 キーンベック病、マーデルング変形(小テスト対策)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 前期小テスト</td> <td>第22週目 後期小テスト</td> </tr> <tr> <td>第8週目 肘関節側副靭帯損傷、肘関節後外側不安定症</td> <td>第23週目 指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー</td> </tr> <tr> <td>第9週目 野球肘</td> <td>第24週目 ばね指、デュピイトラン拘縮、ヘバーデン結節</td> </tr> <tr> <td>第10週目 テニス肘</td> <td>第25週目 ボタン穴変形、スワンネック変形</td> </tr> <tr> <td>第11週目 パンナー病、変形性肘関節症</td> <td>第26週目 臨床徒手検査法①</td> </tr> <tr> <td>第12週目 前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群</td> <td>第27週目 臨床徒手検査法②</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期総復習</td> <td>第28週目 後期総復習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末テスト</td> <td>第29週目 後期期末テスト</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末テスト解説</td> <td>第30週目 後期期末テスト解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>講義方法は範囲によって板書中心、教科書中心、プリント中心と変化する。詳細は都度説明する。 講義中、許可のない撮影及び録音は禁止とし、発覚した場合は単位修得を認めない。 各学期の小テスト及び期末テストは、講義の進行状況により日程、内容を変更する場合がある。</p>											第1週目 オリエンテーション、腱板断裂①	第16週目 正中神経障害、回内筋症候群、前骨間神経麻痺	第2週目 腱板断裂②、上腕二頭筋長頭腱損傷	第17週目 橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺	第3週目 ベネット損傷、SLAP損傷	第18週目 尺骨神経障害、肘部管症候群	第4週目 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩	第19週目 三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病	第5週目 動揺性肩関節、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害	第20週目 手根管症候群、尺骨神経管症候群	第6週目 五十肩、上腕部の軟部組織損傷(小テスト対策)	第21週目 キーンベック病、マーデルング変形(小テスト対策)	第7週目 前期小テスト	第22週目 後期小テスト	第8週目 肘関節側副靭帯損傷、肘関節後外側不安定症	第23週目 指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー	第9週目 野球肘	第24週目 ばね指、デュピイトラン拘縮、ヘバーデン結節	第10週目 テニス肘	第25週目 ボタン穴変形、スワンネック変形	第11週目 パンナー病、変形性肘関節症	第26週目 臨床徒手検査法①	第12週目 前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群	第27週目 臨床徒手検査法②	第13週目 前期総復習	第28週目 後期総復習	第14週目 前期期末テスト	第29週目 後期期末テスト	第15週目 前期期末テスト解説	第30週目 後期期末テスト解説
第1週目 オリエンテーション、腱板断裂①	第16週目 正中神経障害、回内筋症候群、前骨間神経麻痺																																								
第2週目 腱板断裂②、上腕二頭筋長頭腱損傷	第17週目 橈骨神経麻痺、後骨間神経麻痺																																								
第3週目 ベネット損傷、SLAP損傷	第18週目 尺骨神経障害、肘部管症候群																																								
第4週目 肩峰下インピンジメント症候群、リトルリーガー肩	第19週目 三角線維軟骨複合体損傷、ド・ケルバン病																																								
第5週目 動揺性肩関節、肩甲上神経絞扼障害、腋窩神経絞扼障害	第20週目 手根管症候群、尺骨神経管症候群																																								
第6週目 五十肩、上腕部の軟部組織損傷(小テスト対策)	第21週目 キーンベック病、マーデルング変形(小テスト対策)																																								
第7週目 前期小テスト	第22週目 後期小テスト																																								
第8週目 肘関節側副靭帯損傷、肘関節後外側不安定症	第23週目 指側副靭帯損傷、ロッキングフィンガー																																								
第9週目 野球肘	第24週目 ばね指、デュピイトラン拘縮、ヘバーデン結節																																								
第10週目 テニス肘	第25週目 ボタン穴変形、スワンネック変形																																								
第11週目 パンナー病、変形性肘関節症	第26週目 臨床徒手検査法①																																								
第12週目 前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群	第27週目 臨床徒手検査法②																																								
第13週目 前期総復習	第28週目 後期総復習																																								
第14週目 前期期末テスト	第29週目 後期期末テスト																																								
第15週目 前期期末テスト解説	第30週目 後期期末テスト解説																																								
教科書・参考書等	教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』南江堂 教科書:(社)全国柔道整復学校協会監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』南江堂																																								
成績評価の方法	前期:前期小テスト及び前期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は前期再テストの対象となる。) 後期:後期小テスト及び後期期末テストの合計が60点以上の場合に合格とする。 (不合格の場合は後期再テストの対象となる。ただし、前期との合計が120点に到達する場合は再テストを免除とし、単位修得を認める。)																																								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員資格																																								

授業科目名	柔道整復各論Ⅴ			授業形態	講義	教員名	鈴木美加				
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生	
授業概要	骨盤部～下腿遠位端部の骨折、股関節部～足・趾部の脱臼について、各部位の解剖学的特徴を基に、概要、症状、治療法を学ぶ。										
授業の到達目標	1)骨盤部～足趾部の解剖学的特徴の理解の習得 2)骨盤部～下腿遠位端部骨折の概要、判断、治療法の習得 3)股関節部～足趾部の脱臼の概要、判断、治療法の習得										
授業内容・計画	(授業計画) 第1週目 A・骨盤骨骨折 第2週目 A・骨盤骨骨折 第3週目 B・大腿骨骨折 第4週目 B・大腿骨骨折 第5週目 B・大腿骨骨折 第6週目 B・大腿骨骨折 第7週目 B・大腿骨骨折 第8週目 B・大腿骨骨折 第9週目 C・膝蓋骨骨折 第10週目 D・下腿骨骨折 第11週目 D・下腿骨骨折 第12週目 D・下腿骨骨折 第13週目 前期総復習 第14週目 期末試験 第15週目 試験解説、問題演習 第16週目 D・下腿骨骨折 第17週目 D・下腿骨骨折 第18週目 D・下腿骨骨折 第19週目 D・下腿骨骨折 第20週目 A・股関節脱臼 第21週目 A・股関節脱臼 第22週目 A・股関節脱臼 第23週目 B・膝蓋骨脱臼 第24週目 B・膝蓋骨脱臼 第25週目 C・膝関節脱臼 第26週目 D・足部の脱臼 第27週目 D・下腿骨骨折(復習) 第28週目 後期総復習 第29週目 期末試験 第30週目 試験解説、問題演習 (授業の方法および自学学習について) ・資料を配布し、資料に基づいて授業を行うことを基本とする。 ・授業の進行に伴い、小テストを行う。小テストも成績評価に含める。 ・授業ごと、必ず復習を行い小テストに臨むこと。 ・小テストで不十分だったところは期末試験までにしっかり復習すること。 ・授業中の携帯電話の使用(録音、録画等含む)、SNS等への投稿を認めない。 ・授業中の水分補給は認めない。休憩時間に行うこと。										
教科書・参考書等	(社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・理論編(改訂第7版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会 監修『柔道整復学・実技編(改訂第2版)』 南江堂 (社)全国柔道整復学校協会 監修『解剖学(改訂第2版)』 医歯薬出版										
成績評価の方法	①小テスト(20%)※半期ごと5回を予定しており、受験2点、60%以上2点とする。 やむを得ず欠席した場合は、次の授業の前日昼休みまでに受験し60%以上であれば2点を加点する。 ②期末試験の成績(80%) ①、②は半期ごとに行い、総合成績が120点以上の場合に単位を認定する。 ただし、授業に臨む姿勢が好ましくない場合は減点とする場合がある。										
実践的教育に関する経歴等	クリニック・整骨院勤務										

授業科目名	柔道整復各論VI			授業形態	講義	教員名	古小高 朗浩																																		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																															
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各種損傷の概要、発生機序、症状、治療法の学習 ・各種外傷に関連する解剖学的内容の学習 																																								
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種損傷の概要、発生機序、症状、治療法を学び、臨床現場で対応できる知識の習得を目指す。 ・定期的実施する問題演習や小テストにより、安定した学力の定着を図る。 																																								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 胸背部の軟部組織損傷</td> <td>第16週目 下腿部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第2週目 腰部の軟部組織損傷</td> <td>第17週目 下腿部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第3週目 腰部の軟部組織損傷</td> <td>第18週目 足関節部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第4週目 腰部の軟部組織損傷</td> <td>第19週目 足関節部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第5週目 股関節部の軟部組織損傷</td> <td>第20週目 足関節部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第6週目 股関節部の軟部組織損傷</td> <td>第21週目 足趾部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第7週目 大腿部の軟部組織損傷</td> <td>第22週目 足趾部の軟部組織損傷</td> </tr> <tr> <td>第8週目 大腿部の軟部組織損傷</td> <td>第23週目 足趾部の骨折</td> </tr> <tr> <td>第9週目 大腿部の軟部組織損傷</td> <td>第24週目 足趾部の骨折</td> </tr> <tr> <td>第10週目 膝関節部の軟部組織損傷</td> <td>第25週目 足趾部の骨折</td> </tr> <tr> <td>第11週目 膝関節部の軟部組織損傷</td> <td>第26週目 足趾部の骨折</td> </tr> <tr> <td>第12週目 膝関節部の軟部組織損傷</td> <td>第27週目 足趾部の骨折</td> </tr> <tr> <td>第13週目 膝関節部の軟部組織損傷</td> <td>第28週目 足趾部の骨折</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期試験</td> <td>第29週目 後期試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期試験返却/解説</td> <td>第30週目 後期試験返却/解説</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は板書を中心に行い、チョーク各色を頻繁に使用するため、それに対応できるペンを準備できることが望ましい。 ・自学学習は教科書を読み学習することを勧める。また、授業中に板書した内容を参考資料として使用することが望ましい。 											第1週目 胸背部の軟部組織損傷	第16週目 下腿部の軟部組織損傷	第2週目 腰部の軟部組織損傷	第17週目 下腿部の軟部組織損傷	第3週目 腰部の軟部組織損傷	第18週目 足関節部の軟部組織損傷	第4週目 腰部の軟部組織損傷	第19週目 足関節部の軟部組織損傷	第5週目 股関節部の軟部組織損傷	第20週目 足関節部の軟部組織損傷	第6週目 股関節部の軟部組織損傷	第21週目 足趾部の軟部組織損傷	第7週目 大腿部の軟部組織損傷	第22週目 足趾部の軟部組織損傷	第8週目 大腿部の軟部組織損傷	第23週目 足趾部の骨折	第9週目 大腿部の軟部組織損傷	第24週目 足趾部の骨折	第10週目 膝関節部の軟部組織損傷	第25週目 足趾部の骨折	第11週目 膝関節部の軟部組織損傷	第26週目 足趾部の骨折	第12週目 膝関節部の軟部組織損傷	第27週目 足趾部の骨折	第13週目 膝関節部の軟部組織損傷	第28週目 足趾部の骨折	第14週目 前期試験	第29週目 後期試験	第15週目 前期試験返却/解説	第30週目 後期試験返却/解説
第1週目 胸背部の軟部組織損傷	第16週目 下腿部の軟部組織損傷																																								
第2週目 腰部の軟部組織損傷	第17週目 下腿部の軟部組織損傷																																								
第3週目 腰部の軟部組織損傷	第18週目 足関節部の軟部組織損傷																																								
第4週目 腰部の軟部組織損傷	第19週目 足関節部の軟部組織損傷																																								
第5週目 股関節部の軟部組織損傷	第20週目 足関節部の軟部組織損傷																																								
第6週目 股関節部の軟部組織損傷	第21週目 足趾部の軟部組織損傷																																								
第7週目 大腿部の軟部組織損傷	第22週目 足趾部の軟部組織損傷																																								
第8週目 大腿部の軟部組織損傷	第23週目 足趾部の骨折																																								
第9週目 大腿部の軟部組織損傷	第24週目 足趾部の骨折																																								
第10週目 膝関節部の軟部組織損傷	第25週目 足趾部の骨折																																								
第11週目 膝関節部の軟部組織損傷	第26週目 足趾部の骨折																																								
第12週目 膝関節部の軟部組織損傷	第27週目 足趾部の骨折																																								
第13週目 膝関節部の軟部組織損傷	第28週目 足趾部の骨折																																								
第14週目 前期試験	第29週目 後期試験																																								
第15週目 前期試験返却/解説	第30週目 後期試験返却/解説																																								
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学・理論編(改定第7版) ・柔道整復学・実技編(改定第2版) 																																								
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ◆小テストの成績および期末試験成績(100%)を100点法によって評価し、60点以上を合格とする。 <ul style="list-style-type: none"> * 小テストは60点未満を不合格とし、その場合、期末試験成績より2点を減点する。(公欠対象となる欠席の場合はこの限りではない。) * 小テストの実施時期は都度連絡することとする。 * 各学期の成績は学年末に総合し、最終評定を出す。最終評定は100点法によって行い、60点以上を合格とする。 																																								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師、柔道整復師専科教員免許																																								

授業科目名	柔道整復応用実技 I			授業形態	実技	教員名	渡邊 一治																																		
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																															
授業概要	認定実技審査の課題となっている骨折・脱臼の診察・整復法・固定法を実技演習を通し理解学習する。																																								
授業の到達目標	各症例の理解を深め正確に診断できるよう学習する。 骨折・脱臼における整復法の理解と正確な手技を習得する。 また、その固定法・包帯法が確実にできるようにする。																																								
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 認定実技審査について、鎖骨定型的骨折(診察・整復)</td> <td>第16週目 コーレス骨折(診察・整復)</td> </tr> <tr> <td>第2週目 鎖骨定型的骨折(整復・固定)</td> <td>第17週目 コーレス骨折(固定)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定)</td> <td>第18週目 コーレス骨折(固定)</td> </tr> <tr> <td>第4週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定)</td> <td>第19週目 肋骨骨折(診察・固定)</td> </tr> <tr> <td>第5週目 上腕骨外科頸骨折(診察・整復)</td> <td>第20週目 第5中手骨頸部骨折(診察・整復・固定)</td> </tr> <tr> <td>第6週目 肩関節脱臼(診察・整復)</td> <td>第21週目 第5中手骨頸部骨折(固定)</td> </tr> <tr> <td>第7週目 肩関節脱臼(固定)</td> <td>第22週目 下腿骨骨幹部骨折(診察・固定)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 上腕骨骨幹部骨折(固定)</td> <td>第23週目 下腿骨骨幹部骨折(固定)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 肘関節脱臼・肘内障(診察・整復)</td> <td>第24週目 手第2指PIP関節脱臼(診察・固定)</td> </tr> <tr> <td>第10週目 肘関節脱臼(固定)</td> <td>第25週目 骨折脱臼(診察・整復・固定)</td> </tr> <tr> <td>第11週目 骨折・脱臼(診察・整復・固定)</td> <td>第26週目 骨折脱臼(診察・整復・固定)</td> </tr> <tr> <td>第12週目 前期実技試験</td> <td>第27週目 後期実技試験</td> </tr> <tr> <td>第13週目 前期実技試験</td> <td>第28週目 後期実技試験</td> </tr> <tr> <td>第14週目 前期期末試験</td> <td>第29週目 後期期末試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期期末試験 解説と解答</td> <td>第30週目 後期期末試験 解説と解答</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習室での授業となる。白衣(上下)・身嗜み・装飾類に留意すること。 2) 実習の準備(包帯・テープ・副子等)を準備し待機する。 3) 欠席や授業態度なども評価対象となる。 4) 授業終了後は当日の教室当番が清掃し教室へ戻ること。 											第1週目 認定実技審査について、鎖骨定型的骨折(診察・整復)	第16週目 コーレス骨折(診察・整復)	第2週目 鎖骨定型的骨折(整復・固定)	第17週目 コーレス骨折(固定)	第3週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定)	第18週目 コーレス骨折(固定)	第4週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定)	第19週目 肋骨骨折(診察・固定)	第5週目 上腕骨外科頸骨折(診察・整復)	第20週目 第5中手骨頸部骨折(診察・整復・固定)	第6週目 肩関節脱臼(診察・整復)	第21週目 第5中手骨頸部骨折(固定)	第7週目 肩関節脱臼(固定)	第22週目 下腿骨骨幹部骨折(診察・固定)	第8週目 上腕骨骨幹部骨折(固定)	第23週目 下腿骨骨幹部骨折(固定)	第9週目 肘関節脱臼・肘内障(診察・整復)	第24週目 手第2指PIP関節脱臼(診察・固定)	第10週目 肘関節脱臼(固定)	第25週目 骨折脱臼(診察・整復・固定)	第11週目 骨折・脱臼(診察・整復・固定)	第26週目 骨折脱臼(診察・整復・固定)	第12週目 前期実技試験	第27週目 後期実技試験	第13週目 前期実技試験	第28週目 後期実技試験	第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験	第15週目 前期期末試験 解説と解答	第30週目 後期期末試験 解説と解答
第1週目 認定実技審査について、鎖骨定型的骨折(診察・整復)	第16週目 コーレス骨折(診察・整復)																																								
第2週目 鎖骨定型的骨折(整復・固定)	第17週目 コーレス骨折(固定)																																								
第3週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定)	第18週目 コーレス骨折(固定)																																								
第4週目 肩鎖関節上方脱臼(診察・整復・固定)	第19週目 肋骨骨折(診察・固定)																																								
第5週目 上腕骨外科頸骨折(診察・整復)	第20週目 第5中手骨頸部骨折(診察・整復・固定)																																								
第6週目 肩関節脱臼(診察・整復)	第21週目 第5中手骨頸部骨折(固定)																																								
第7週目 肩関節脱臼(固定)	第22週目 下腿骨骨幹部骨折(診察・固定)																																								
第8週目 上腕骨骨幹部骨折(固定)	第23週目 下腿骨骨幹部骨折(固定)																																								
第9週目 肘関節脱臼・肘内障(診察・整復)	第24週目 手第2指PIP関節脱臼(診察・固定)																																								
第10週目 肘関節脱臼(固定)	第25週目 骨折脱臼(診察・整復・固定)																																								
第11週目 骨折・脱臼(診察・整復・固定)	第26週目 骨折脱臼(診察・整復・固定)																																								
第12週目 前期実技試験	第27週目 後期実技試験																																								
第13週目 前期実技試験	第28週目 後期実技試験																																								
第14週目 前期期末試験	第29週目 後期期末試験																																								
第15週目 前期期末試験 解説と解答	第30週目 後期期末試験 解説と解答																																								
教科書・参考書等	柔道整復学(理論編・実技編)・ノートは常備 解剖学・人体解剖アトラスなど																																								
成績評価の方法	授業態度、出席状況、課題提出、期末試験(前・後期)、実技試験(前・後期)等を総合的に評価する。																																								
実践的教育に関する経歴等	柔道整復専科教員、認定実技審査員(整復実技・柔道実技)																																								

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅱ			授業形態	実技	教員名	津田新吾																																	
科目区分	専門分野	単位数	2 単位	時間数	60 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																														
授業概要	運動器疾患の診かた(評価と治療)の概念を理解し、包括的なアプローチが実践出来る事を目指す。本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器疾患の診かたを理解出来る。 ・標準的な後療法の方法論を理解出来る。 ・適切な評価と治療が実施出来るようになる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 運動器疾患の診かた</td> <td>第16週目 頸部</td> </tr> <tr> <td>第2週目 徒手医学用語1</td> <td>第17週目 頸部</td> </tr> <tr> <td>第3週目 徒手医学用語2</td> <td>第18週目 肩関節</td> </tr> <tr> <td>第4週目 徒手的功能診断</td> <td>第19週目 肩関節</td> </tr> <tr> <td>第5週目 触診・運動検査</td> <td>第20週目 肘関節</td> </tr> <tr> <td>第6週目 臨床推理</td> <td>第21週目 手関節</td> </tr> <tr> <td>第7週目 徒手療法実技1</td> <td>第22週目 腰部</td> </tr> <tr> <td>第8週目 徒手療法実技2</td> <td>第23週目 骨盤・股関節</td> </tr> <tr> <td>第9週目 徒手療法実技3</td> <td>第24週目 骨盤・股関節</td> </tr> <tr> <td>第10週目 徒手療法実技4</td> <td>第25週目 膝関節</td> </tr> <tr> <td>第11週目 徒手療法実技5</td> <td>第26週目 膝関節</td> </tr> <tr> <td>第12週目 徒手療法実技6</td> <td>第27週目 膝関節・足関節</td> </tr> <tr> <td>第13週目 徒手療法実技7</td> <td>第28週目 総合演習</td> </tr> <tr> <td>第14週目 実技試験</td> <td>第29週目 実技試験</td> </tr> <tr> <td>第15週目 期末テスト</td> <td>第30週目 期末試験</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・googleクラスルームを用いて総合評価を判定しますので、各自準備ください。 実技試験を実施する日に、欠席(公欠)となった場合時間外で対応します。 欠席理由が、公欠とならない場合は実施しません。実技演習は必ず運動着着用の事 										第1週目 運動器疾患の診かた	第16週目 頸部	第2週目 徒手医学用語1	第17週目 頸部	第3週目 徒手医学用語2	第18週目 肩関節	第4週目 徒手的功能診断	第19週目 肩関節	第5週目 触診・運動検査	第20週目 肘関節	第6週目 臨床推理	第21週目 手関節	第7週目 徒手療法実技1	第22週目 腰部	第8週目 徒手療法実技2	第23週目 骨盤・股関節	第9週目 徒手療法実技3	第24週目 骨盤・股関節	第10週目 徒手療法実技4	第25週目 膝関節	第11週目 徒手療法実技5	第26週目 膝関節	第12週目 徒手療法実技6	第27週目 膝関節・足関節	第13週目 徒手療法実技7	第28週目 総合演習	第14週目 実技試験	第29週目 実技試験	第15週目 期末テスト	第30週目 期末試験
第1週目 運動器疾患の診かた	第16週目 頸部																																							
第2週目 徒手医学用語1	第17週目 頸部																																							
第3週目 徒手医学用語2	第18週目 肩関節																																							
第4週目 徒手的功能診断	第19週目 肩関節																																							
第5週目 触診・運動検査	第20週目 肘関節																																							
第6週目 臨床推理	第21週目 手関節																																							
第7週目 徒手療法実技1	第22週目 腰部																																							
第8週目 徒手療法実技2	第23週目 骨盤・股関節																																							
第9週目 徒手療法実技3	第24週目 骨盤・股関節																																							
第10週目 徒手療法実技4	第25週目 膝関節																																							
第11週目 徒手療法実技5	第26週目 膝関節																																							
第12週目 徒手療法実技6	第27週目 膝関節・足関節																																							
第13週目 徒手療法実技7	第28週目 総合演習																																							
第14週目 実技試験	第29週目 実技試験																																							
第15週目 期末テスト	第30週目 期末試験																																							
教科書・参考書等	<p>標準徒手医学入門編運動器疾患の徒手的功能診断と治療医学映像教育センター 日本スポーツリハビリテーション学会JSSR認定トレーナーテキスト医学映像教育センター 南江堂柔道整復理論編(改定第7版)</p>																																							
成績評価の方法	<p>前期総合評価50%期末試験20%実技試験30% 後期総合評価50%期末試験20%実技試験30% ※総合評価は、授業内で説明します。 前期・後期それぞれの点数が60点以上であれば単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格CSCS																																							

授業科目名	柔道整復応用実技Ⅲ			授業形態	実技	教員名	津田新吾			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	柔道整復師・スポーツトレーナーに必要な触察法を習得する。本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。									
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 骨や筋の位置関係を正確に捉えられるようになる。 触察技術を基に後療法に発展する事が出来る。 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 触診の基本 第2週目 骨盤・股関節1 第3週目 骨盤・股関節2 第4週目 膝関節1 第5週目 膝関節2 第6週目 足関節1 第7週目 足関節2 第8週目 頸椎 第9週目 頭部・頸部 第10週目 肩・肘関節1 第11週目 肩・肘関節2 第12週目 手関節・手指部 第13週目 前腕～手指部1 第14週目 実技試験 第15週目 期末試験 <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・googleクラスルームを用いて総合評価を判定しますので、各自準備ください。 実技試験を実施する日に、欠席(公欠)となった場合時間外で対応する。 欠席理由が、公欠とならない場合は実施しない。 実技演習は必ず運動着着用の事 									
教科書・参考書等	総合評価 50% 実技試験 30% 期末試験20% ※ 総合評価は、授業内で説明します。									
成績評価の方法	運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 上肢 メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス 下肢・体幹									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格									

授業科目名	外傷予防の実際Ⅱ			授業形態	実技	教員名	津田新吾			
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	運動器疾患やスポーツ障害予防等、実際に提供する事を想定し、その方法論を講義や実技にて論じる。本科目は、日本スポーツリハビリテーション学会(JSSR)認定トレーナー資格関連科目である。									
授業の到達目標	柔道整復師が行う後療法を他者に説明・実践が出来るようになる事を目標とする。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 競技者の外傷予防概論 第2週目 事例検討 AGL術後後療と競技復帰まで 第3週目 エクササイズテクニック1 第4週目 エクササイズテクニック2 第5週目 エクササイズテクニック3 第6週目 エクササイズテクニック4 第7週目 エクササイズテクニック5 第8週目 実技試験 第9週目 高齢者の外傷予防 外傷予防実践 第10週目 グループワーク 第11週目 グループ発表① 第12週目 外傷予防の実践 第13週目 グループワーク 第14週目 グループ発表② 第15週目 期末試験</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>授業は講義とグループワークや発表などを中心とする。 実技試験を実施する日に、欠席(公欠)となった場合時間外で対応する。 欠席理由が、公欠とならない場合は実施しない。 実技演習は必ず運動着着用の事</p>									
教科書・参考書等	全国柔道整復学校協会監修教科書 競技者の外傷予防 (公社)全国柔道整復学校協会 監修/小林直行・高橋康輝 著 NSCAジャパンストレングス&コンディショニング エクササイズ・バイブル NSCAジャパンヒューマンパフォーマンスセンター【著】/福永 哲夫【監修】 日本スポーツリハビリテーション学会 JSSR認定トレーナーテキスト 医学映像教育センター									
成績評価の方法	実技試験 30% 総合評価 50% (グループ発表 25%×2回) 期末試験 20%									
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師・柔道整復専科教員資格 GSCS									

授業科目名	臨床実習 I			授業形態	実技・実習	教員名	大村 裕																																	
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																														
授業概要	1年次に学習した知識や技術をもとに、卒業後接骨院で働く上で必要な技能の習得を図る。本科目は附属接骨院内での見学実習または演習を基本とする。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として適切な態度や行動を示すことができる。 ・来院患者の応対について適切に説明することができる。 ・医療面接において必要な情報を聴取し、記録することができる。 ・診察において必要な徴候を確認、評価して記録することができる。 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 接骨院における業務の概要</td> <td>第16週目 医療面接と身体診察11</td> </tr> <tr> <td>第2週目 医療面接と身体診察1</td> <td>第17週目 医療面接と身体診察12</td> </tr> <tr> <td>第3週目 医療面接と身体診察2</td> <td>第18週目 医療面接と身体診察13</td> </tr> <tr> <td>第4週目 医療面接と身体診察3</td> <td>第19週目 医療面接と身体診察14</td> </tr> <tr> <td>第5週目 医療面接と身体診察4</td> <td>第20週目 医療面接と身体診察15</td> </tr> <tr> <td>第6週目 医療面接と身体診察5</td> <td>第21週目 医療面接と身体診察16</td> </tr> <tr> <td>第7週目 医療面接と身体診察6</td> <td>第22週目 医療面接と身体診察17</td> </tr> <tr> <td>第8週目 医療面接と身体診察7</td> <td>第23週目 医療面接と身体診察18</td> </tr> <tr> <td>第9週目 医療面接と身体診察8</td> <td>第24週目 医療面接と身体診察19</td> </tr> <tr> <td>第10週目 医療面接と身体診察9</td> <td>第25週目 医療面接と身体診察20</td> </tr> <tr> <td>第11週目 医療面接と身体診察10</td> <td>第26週目 実習まとめ</td> </tr> <tr> <td>第12週目 実習まとめ</td> <td>第27週目 実習内評価試験</td> </tr> <tr> <td>第13週目 実習内評価試験</td> <td>第28週目 実習内評価試験</td> </tr> <tr> <td>第14週目 実習内評価試験</td> <td>第29週目 実習振り返り、総合的なまとめ1</td> </tr> <tr> <td>第15週目 実習振り返り、後期の実習について</td> <td>第30週目 総合的なまとめ2</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に指定した範囲の復習を十分に行ってから臨むこと。 ・附属接骨院内での実習となるため、別紙の注意事項を精読し、内容を順守すること。 * 注意事項を守らない場合は欠席扱いとする ・実習記録は実習終了後1週間以内に職員室に提出すること(期限超過、内容の不備は減点とする)。 ・欠席時は成績評価から1回につき5点を減点する。 ・各自、クリップファイルを1つ準備して実習時に持参すること。 										第1週目 接骨院における業務の概要	第16週目 医療面接と身体診察11	第2週目 医療面接と身体診察1	第17週目 医療面接と身体診察12	第3週目 医療面接と身体診察2	第18週目 医療面接と身体診察13	第4週目 医療面接と身体診察3	第19週目 医療面接と身体診察14	第5週目 医療面接と身体診察4	第20週目 医療面接と身体診察15	第6週目 医療面接と身体診察5	第21週目 医療面接と身体診察16	第7週目 医療面接と身体診察6	第22週目 医療面接と身体診察17	第8週目 医療面接と身体診察7	第23週目 医療面接と身体診察18	第9週目 医療面接と身体診察8	第24週目 医療面接と身体診察19	第10週目 医療面接と身体診察9	第25週目 医療面接と身体診察20	第11週目 医療面接と身体診察10	第26週目 実習まとめ	第12週目 実習まとめ	第27週目 実習内評価試験	第13週目 実習内評価試験	第28週目 実習内評価試験	第14週目 実習内評価試験	第29週目 実習振り返り、総合的なまとめ1	第15週目 実習振り返り、後期の実習について	第30週目 総合的なまとめ2
第1週目 接骨院における業務の概要	第16週目 医療面接と身体診察11																																							
第2週目 医療面接と身体診察1	第17週目 医療面接と身体診察12																																							
第3週目 医療面接と身体診察2	第18週目 医療面接と身体診察13																																							
第4週目 医療面接と身体診察3	第19週目 医療面接と身体診察14																																							
第5週目 医療面接と身体診察4	第20週目 医療面接と身体診察15																																							
第6週目 医療面接と身体診察5	第21週目 医療面接と身体診察16																																							
第7週目 医療面接と身体診察6	第22週目 医療面接と身体診察17																																							
第8週目 医療面接と身体診察7	第23週目 医療面接と身体診察18																																							
第9週目 医療面接と身体診察8	第24週目 医療面接と身体診察19																																							
第10週目 医療面接と身体診察9	第25週目 医療面接と身体診察20																																							
第11週目 医療面接と身体診察10	第26週目 実習まとめ																																							
第12週目 実習まとめ	第27週目 実習内評価試験																																							
第13週目 実習内評価試験	第28週目 実習内評価試験																																							
第14週目 実習内評価試験	第29週目 実習振り返り、総合的なまとめ1																																							
第15週目 実習振り返り、後期の実習について	第30週目 総合的なまとめ2																																							
教科書・参考書等																																								
成績評価の方法	<p>欠席による減点 実習記録、課題の提出(20%) 実習内評価(80%)</p> <p>上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。</p>																																							
実践的教育に関する経歴等	柔道整復師専科教員資格																																							

授業科目名	臨床実習Ⅱ			授業形態	実技・実習	教員名	菊地 司																																	
科目区分	専門分野	単位数	1 単位	時間数	45 時間	期間	通年	30 回	対象学年	2 年生																														
授業概要	1年次に学習した知識や技術をもとに、卒後接骨院で働く上で必要な技能の習得を図る。本科目は接骨院内での見学実習または演習を基本とする。																																							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者として適切な態度、行動をとることができる ・来院時の受付業務やベッドメイキングなどの院内環境の整備を行うことができる ・患者に対して物療機器や後療法に関する基本的な事項を説明することができる ・行った後療法についての内容や所見等をカルテに記載することができる 																																							
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週目 オリエンテーション、臨床実習説明</td> <td>第16週目 物理療法復習</td> </tr> <tr> <td>第2週目 手技療法復習</td> <td>第17週目 物理療法実技(基礎)</td> </tr> <tr> <td>第3週目 手技療法実技(基礎)</td> <td>第18週目 物理療法実技GW1</td> </tr> <tr> <td>第4週目 手技療法実技(腰部)</td> <td>第19週目 物理療法実技GW2</td> </tr> <tr> <td>第5週目 手技療法実技(背部)</td> <td>第20週目 物理療法実技GW3</td> </tr> <tr> <td>第6週目 手技療法実技(大腿部)</td> <td>第21週目 運動療法復習</td> </tr> <tr> <td>第7週目 手技療法実技(下腿部)</td> <td>第22週目 運動療法実技(基礎)</td> </tr> <tr> <td>第8週目 手技療法実技(足部)</td> <td>第23週目 運動療法実技(ストレッチ)</td> </tr> <tr> <td>第9週目 手技療法実技(肩部)</td> <td>第24週目 運動療法実技(ファンクショナルエクササイズ)</td> </tr> <tr> <td>第10週目 手技療法実技(上腕、前腕)</td> <td>第25週目 施術録とは、施術録の扱いと記載</td> </tr> <tr> <td>第11週目 手技療法実技(頸部)</td> <td>第26週目 施術録の作成実習</td> </tr> <tr> <td>第12週目 前期総復習</td> <td>第27週目 後期総復習</td> </tr> <tr> <td>第13週目 実習内評価(実技)</td> <td>第28週目 実習内評価(実技)</td> </tr> <tr> <td>第14週目 実習内評価(筆記)</td> <td>第29週目 実習内評価(筆記)</td> </tr> <tr> <td>第15週目 前期学習内容総まとめ</td> <td>第30週目 後期学習内容総まとめ</td> </tr> </table> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布したプリント、またはホワイトボードを使用しながら授業を行うことを基本とする。* 臨床実習室 ・附属接骨院内での実習となるため、別紙の注意事項に十分に留意すること ・実習記録は実習終了後1週間以内に職員室に提出すること(期限超過、内容の不備は減点とする)。 ・実習に臨むに適切でないと判断された場合は欠席扱いとするので留意すること 										第1週目 オリエンテーション、臨床実習説明	第16週目 物理療法復習	第2週目 手技療法復習	第17週目 物理療法実技(基礎)	第3週目 手技療法実技(基礎)	第18週目 物理療法実技GW1	第4週目 手技療法実技(腰部)	第19週目 物理療法実技GW2	第5週目 手技療法実技(背部)	第20週目 物理療法実技GW3	第6週目 手技療法実技(大腿部)	第21週目 運動療法復習	第7週目 手技療法実技(下腿部)	第22週目 運動療法実技(基礎)	第8週目 手技療法実技(足部)	第23週目 運動療法実技(ストレッチ)	第9週目 手技療法実技(肩部)	第24週目 運動療法実技(ファンクショナルエクササイズ)	第10週目 手技療法実技(上腕、前腕)	第25週目 施術録とは、施術録の扱いと記載	第11週目 手技療法実技(頸部)	第26週目 施術録の作成実習	第12週目 前期総復習	第27週目 後期総復習	第13週目 実習内評価(実技)	第28週目 実習内評価(実技)	第14週目 実習内評価(筆記)	第29週目 実習内評価(筆記)	第15週目 前期学習内容総まとめ	第30週目 後期学習内容総まとめ
第1週目 オリエンテーション、臨床実習説明	第16週目 物理療法復習																																							
第2週目 手技療法復習	第17週目 物理療法実技(基礎)																																							
第3週目 手技療法実技(基礎)	第18週目 物理療法実技GW1																																							
第4週目 手技療法実技(腰部)	第19週目 物理療法実技GW2																																							
第5週目 手技療法実技(背部)	第20週目 物理療法実技GW3																																							
第6週目 手技療法実技(大腿部)	第21週目 運動療法復習																																							
第7週目 手技療法実技(下腿部)	第22週目 運動療法実技(基礎)																																							
第8週目 手技療法実技(足部)	第23週目 運動療法実技(ストレッチ)																																							
第9週目 手技療法実技(肩部)	第24週目 運動療法実技(ファンクショナルエクササイズ)																																							
第10週目 手技療法実技(上腕、前腕)	第25週目 施術録とは、施術録の扱いと記載																																							
第11週目 手技療法実技(頸部)	第26週目 施術録の作成実習																																							
第12週目 前期総復習	第27週目 後期総復習																																							
第13週目 実習内評価(実技)	第28週目 実習内評価(実技)																																							
第14週目 実習内評価(筆記)	第29週目 実習内評価(筆記)																																							
第15週目 前期学習内容総まとめ	第30週目 後期学習内容総まとめ																																							
教科書・参考書等	柔道整復学・理論編 柔道整復学・実技編 解剖学																																							
成績評価の方法	1)出席状況・実習内提出物(20%) 2)実習内評価(40%) 3)筆記試験(40%) * 欠席時は成績評価から5点を減点、実習レポート未提出は2点減点、遅延提出の加点はなしとする 上記項目から総合的に評価し、60点以上を取得した場合を合格とする。																																							
実践的教育に関する経歴等	①整骨院勤務 ②柔道整復専科教員資格 ③各種トレーナー																																							

授業科目名	スポーツトレーナー演習			授業形態	講義	教員名	鈴木 拓夢			
科目区分	専門基礎分野	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーナー活動に必要な知識と技術の獲得 ・整骨院等で来院するスポーツ疾患にプラスし、慢性疾患についての説明 ・各疾患別のテーピング実習 									
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. トレーナー活動で重要な対処方法ができる 2. 急性・慢性疾患に対しての説明・実践ができる 3. スポーツトレーナーとしての立場・知識を身につける 									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1週目 オリエンテーション 第2週目 トレーナーの役割 第3週目 急性疾患の対応方法(RICE処置など) 第4週目 超音波エコーについて 第5週目 足関節疾患について(鑑別と対応方法)① 第6週目 足関節疾患について(鑑別と対応方法)② 第7週目 膝関節疾患について(鑑別と対応方法)① 第8週目 膝関節疾患について(鑑別と対応方法)② 第9週目 各種肉離れについて(鑑別と対応方法)① 第10週目 各種肉離れについて(鑑別と対応方法)② 第11週目 その他疾患(急性・慢性含め)① 第12週目 ここまでのまとめ 第13週目 期末試験(実技) 第14週目 期末試験(筆記) 第15週目 前期のまとめ <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒板を使用し授業を行う。実技も行うためジャージ等での参加が良い ・必要な疾患はこちらで作成した資料を参考に授業を進める。 ・実技に関しては各自復習を行うこと。 ・疾患によっては超音波エコーを使いながら行います。 									
教科書・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・柔道整復学(理論編)、柔道整復学(実技編)を参考書とする。 									
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> ①実技による期末試験(100点) ※服装による減点あり。 ※術者・患者の両方を行い、術者時配点(80点)、患者時配点(20点)。 ②欠席、遅刻、早退の多い学生には単位を与えない。 <p>上記の項目により総合成績が60点以上の場合に単位を認定する。</p>									
実践的教育に関する経歴等	<ol style="list-style-type: none"> ①整骨院勤務 ②楽天イーグルスメディカルトレーナー ③楽天アカデミーメディカルトレーナー 									

授業科目名	ストレンクス&コンディショニング		授業形態	講義・演習	教員名	早坂 ひとみ				
科目区分	選択必修科目	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	科学的根拠に基づいてトレーニングプログラムの作成法、指導法を知識を理解し実践できる。トレーニング指導者に必要な基本的な知識を理解する。									
授業の到達目標	科学的根拠に基づき、スポーツ種目や選手の特性に合ったトレーニング計画をたてるために必要な理論と実践力を養う。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 トレーニング計画の立案 第2週目 運動生理(骨格筋系) 第3週目 運動生理(エネルギー代謝、呼吸循環系) 第4週目 筋力向上トレーニング 第5週目 筋力向上トレーニング 実技 第6週目 パワー向上トレーニング 第7週目 持久力向上トレーニング(有酸素性、無酸素性) 第8週目 ウォーミングアップとクーリングダウン 第9週目 柔軟性向上トレーニング:理論 第10週目 柔軟性向上トレーニング:実技 第11週目 運動と栄養 第12週目 運動と医学(整形外科的傷害と予防、生活習慣病予防、子供、高齢者) 第13週目 運動と心理 第14週目 テスト 第15週目 解答</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>授業で学習する内容に関して予習をする。 各種トレーニングは、理論をよく理解し、実際にトレーニング実技ができるよう学習する。 ※講義進行中にトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。</p>									
教科書・参考書等	①トレーニング指導者テキスト 理論編・改訂版 ②トレーニング指導者テキスト 実践編・改訂版 ③トレーニング指導者テキスト 実技編・改訂版 及び、配布資料									
成績評価の方法	期末テスト									
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー									

授業科目名	アスレティックトレーニング			授業形態	講義・演習	教員名	早坂 ひとみ			
科目区分	選択必修科目	単位数	2 単位	時間数	30 時間	期間	半期	15 回	対象学年	2 年生
授業概要	アスレティックトレーニング及びアスレティックトレーナーの任務と役割、具体的な業務内容について学ぶ。 サポートスタッフ、メディカルスタッフの構成メンバーとその役割について学ぶ。 スポーツの組織とその運営について学ぶ。									
授業の到達目標	アスレティックトレーニング及びアスレティックトレーナーの任務、役割、具体的な業務について学ぶ。 コーチ、スポーツドクターの役割とアスレティックトレーナーとの連携について理解し、状況に応じて、行動、正しく判断できるようになる。 アスリートに対して、サポートを行うための知識を身につけ、実践できるようになる。									
授業内容・計画	<p>(授業計画)</p> <p>第1週目 アスレティックトレーニングとはアスレティックトレーナーの業務：①スポーツ傷害(分類、メカニズム) ②傷害の評価</p> <p>第2週目 アスレティックトレーナーの業務:①スポーツ現場における救急処置 ②スポーツ外傷・障害の予防と防具 ③アスレティックリハビリテーション ④コンディショニング</p> <p>第3週目 アスレティックトレーナーの業務:測定と評価</p> <p>第4週目 測定と評価 実技:関節弛緩性、周径囲</p> <p>第5週目 測定と評価 実技:タイトネス、アライメント</p> <p>第6週目 測定と評価 実技:タイトネス、アライメント</p> <p>第7週目 防具、補装具 理論及び実技:テーピング(手関節、指関節、足部、踵部)</p> <p>第8週目 防具、補装具 実技:テーピング(足関節)</p> <p>第9週目 防具、補装具 実技:テーピング(膝関節、肘関節)</p> <p>第10週目 防具、補装具 実技:テーピング(アキレス腱、下腿)</p> <p>第11週目 防具、補装具 実技:テーピング 復習</p> <p>第12週目 防具、補装具 実技:テーピング 復習</p> <p>第13週目 防具、補装具 実技:テーピング テスト</p> <p>第14週目 テスト</p> <p>第15週目 解答</p> <p>(授業の方法および自学学習について)</p> <p>事前に配布された資料を精読しておく。 授業後、特に実技に関しては、理論を熟知し、実際に測定、テーピング出来るよう学習する。</p> <p>※講義進行中にテーピングやトレーニング法などの実技を取り入れて実施する場合もあるので、動きやすい服装で参加すること。 必要なテーピングの種類や実施時期については授業内で説明する。</p>									
教科書・参考書等	①財団法人 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト1 アスレティックトレーナーの役割 ②財団法人 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト6 予防とコンディショニング ③配布資料									
成績評価の方法	期末テスト									
実践的教育に関する経歴等	①柔道整復師、②接骨院開設、③JATI-AATI、④NSCA-CPT、⑤日本赤十字社救急法指導員 ⑥高校レスリング部トレーナー、⑦高校男子バスケットボール部トレーナー、⑧山形県国体チームトレーナー									